

健康メモ

甲状腺の病気について

広島市医師会理事
内科(糖尿病久安医院院長) 大久保 雅通

甲状腺疾患は、ホルモンの異常を来す病気の中で最も頻度が高いものです。今



回は甲状腺機能の低下する病気の代表である橋本病について述べます。

橋本病は正確には慢性甲状腺炎と呼ばれます。女性性は男性の二〇倍多く、三〇人に一人にみられるとされ、特に四〇歳以上で増加すると言われています。甲状腺組織に対する抗体が出現し、甲状腺の組織に作用する結果、徐々に機能の低下を来す病気

です。

自覚症状として甲状腺の腫れのほか、寒がり、体重増加、疲れやすさ、むくみ、便秘などの症状がみられます。個々の症状に特徴的なものが少ないので、発見のためにはこの病気を念頭に置くことが重要です。甲状腺を触診すると、バセドウ病と比較し硬い甲状腺を触れるのが特徴です。血液検査で甲状腺ホルモンの低下とともに、甲状腺に対する抗体が検出されます。超音波検査では甲状腺の全体的な腫大があり、表面に凹凸不正を認めます。病気が進行した結果、逆に甲状腺が萎縮していることがあります。検診で総コレステロール、LDL(悪玉)コレステロールの上昇などの所見が、しばしば発見の契機となります。重症例では筋肉の酵素(CPK)が上昇したり、肝機能異常がみられたりするのですが、最近はこのままで放置される例は少なくなりました。

治療は甲状腺ホルモンの内服を行います。このお薬の副作用は、非常に少ないとされています。食事の内容容について、あまり気にされる必要はありませんが、ヨードの大量摂取(根昆布など)は避けたほうが良いでしょう。うがい(イソジンなど)も通常の回数程度でしたら構いません。この病気が遺伝するかどうかですが、家族内で発生しやすい傾向はあるようです。

良性の病気である橋本病ですが、まれにリンパ腫が合併することがありますので、甲状腺の部分的な腫れが急に強くなったときは受診して下さい。症状が軽くなると治療を中断しがちですが、コレステロールの上昇は動脈硬化を進めること、また甲状腺機能低下と認知症の関係も注目されているので、治療を継続するようお願いいたします。

